

序

ラリンジアルマスクエアウェイ（以下、LMA）がDr. Brainによって初めて考案されたのが1980年代初頭だったことを考えると、すでに30年近くも経過したことになる。その間、気道確保の新たな手段としてのLMAの位置はほぼ確立されたといえる。さらに、挿管用LMAや胃管挿入が可能なLMA、ディスプレイブルLMAなども次々に開発されLMAは現在も進化し続けている。

使用する側の我々の知識や技術はLMAの進化とともに歩んできているかという、必ずしもそうではないと感じるのは私だけであろうか。なぜLMAはこのような形になっているのか？という根本的な疑問を解決するための解剖学的知識はもちろんのこと、実際使用していると、上手に挿入できる方法はないか？小児や挿管困難でも使用できるか？上手くフィットしないときなどのLMA使用時のトラブルへの対応はどうしたらよいか？よいトレーニング方法は？と次々に技術的な疑問がわいてくる。私自身このような疑問に即座に答えることのできるLMAの手引書の必要性を痛感していた。そこで、実際の医療現場や麻酔科医・救急集中治療医のための気道管理トレーニングコースなどでLMAの使い方を実際に教えてくださっている先生方に執筆をお願いし、羊土社のご協力で出来上がったのが本書である。ご多忙の合間に快く執筆を引受けてくださったことにこの場を借りて感謝いたしたい。

さて、本書は編集部の協力のもと、できるだけ多くの実際の写真や模型の写真あるいはイラストを使用し、読者が初めてLMAを使用する際にも役立つように工夫したつもりである。また小児や救急、気道確保困難に遭遇した場合にも役立つように項目を設けた。さらに共同編者の村島浩二先生には特に入念に語句の統一を図っていただいた。本書が気道確保を施行する可能性のあるあらゆる医療関係者にお役に立ち、少しでも多くの症例に安全で確実なLMAの使用がなされることを祈ってやまない。また本書は読者の皆様方とともに発展したいと考えており、ご意見やご感想を編集部までいただければ誠に幸いである。

2009年春

北里大学医学部麻酔科
岡本浩嗣